

令和2年度第4回 富秋中学校区等まちづくり検討会議 議事概要

1. 日 時：令和3年3月22日（月）19：00～21：00

2. 場所：和泉市 人権文化センター 大会議室

3. 出席者：委員 19名
和泉市職員 13名
コンサルタント 8名

4. 議事次第

- (1) 各プロジェクトの状況について【市営住宅・店舗】
- (2) 各プロジェクトの状況について【多世代交流拠点施設】
- (3) 各プロジェクトの状況について【学校】
- (4) 各プロジェクトの状況について【公園】
- (5) 今後の進め方について

5. 議事概要

■各プロジェクトの状況について【市営住宅・店舗】 ※以下、特記無き場合委員の発言

○市浦より資料説明 資料【市営住宅プロジェクト委員会資料】

○市より資料説明 資料【店舗及び作業所に関する方針】

○意見交換は、隣接する多世代交流拠点施設とセットで行った。

■各プロジェクトの状況について【多世代交流拠点施設】

○市浦より資料説明 資料【多世代交流拠点施設プロジェクト委員会資料】

- ・建替え後の市営住宅や店舗の家賃はどれくらいになるのか。店舗については、近傍同種家賃が40㎡の場合80,000円という説明があったが、市営住宅についても同様、今の安い家賃より値段が上がった時にどれくらいの人に移転してくれるか、市としてどう考えているか。

⇒公営住宅の家賃は、公営住宅法に定められているとおり住宅の面積によって決められているので、古くなれば多少安くなるものの、建替え後も現状と比べてとても高くなるというわけではない。基本的には収入に応じた家賃となるが、収入が低い方は減免制度が適用され、最低10,000円程度に下がる場合もあるため、生活困窮者についてはあまり影響がないと考えている。逆に収入の多い入居者に対しては、家賃が高くなって市営住宅から退去したいと思った時に、地域の中で購入いただけるような土地を今回の事業で生み出そうと考えている。今ある地域コミュニティを考慮しつつ、法に基づいた説明をきちんとしていかないといけないと思っている。（市）

⇒店舗については、近傍同種家賃（80,000円）まで家賃を上げることは難しいと考えている。しかし、市としても建築コストを回収するために一定の家賃収入が必要であることをご理解いただきたい。ち

なみに現状の店舗家賃は平均で 16,000 円であるので、80,000 円と大きな乖離があるので、一定上げざるを得ないと考えている。(市)

- ・現在店舗営業されている方々のうち、どれくらいの方が移転してくれそうか。

⇒まず市営住宅入居者については、4 月にアンケートを実施して住み替え意向を伺うつもりである。店舗を営業されている方へも、今後数回かけて意向把握を進めていきたいと考えている。(コンサル)

- ・市営住宅は家賃を下げる制度があるとのことだが、店舗についても抑えられる方法はあるのか。

⇒店舗の場合は、特に法がなく市が決めるだけではあるが、ある程度採算性が取れるくらいの金額にしないと難しい。(市)

- ・家賃をあげすぎるとクレームが出ると思うので、よく考えた方が良い。

- ・まちづくりを進めていくことを考えた時に、現在店舗を営業しておらず、新たにこの地域でお店を開きたいと思う人が移転することは可能か。

⇒今回整備する店舗については、基本的に今営業されている方が移転対象となる。その方が出ていかれた後についても、今回の事業対象以外の店舗(40~50 店舗)の移転先候補となり得るので、今の時点では、新たに営業したい人を受け入れるのは中々難しい。(市)

- ・新たにお店を開きたい人は、自分で土地を買うしかないのか。

⇒土地を買うか、上記店舗の空いたタイミングを狙うしかない、それは市営住宅も一緒。まずは今住まわれている方、営業されている方の住居、店舗をつくるという考え方である。(コンサル)

- ・今回の事業により、市営住宅の戸数が 1,840 戸から 858 戸に減るということだが、跡地についてはどうなるのか。

⇒市営住宅を 3 期に分けて建替え集約を進めていく、学校も統合していく中で徐々に跡地が創出される計画となっている。跡地の考え方については、これまで検討会議の中で、地元で育った人が住める住宅を誘導してほしい、という意見をいただいているので、基本的には跡地に住宅を提供したいというのが市の思いである。ただし、民間事業者へのサウンディング調査を行う中で、現状では跡地に大規模な住宅の誘致は難しいという住宅業界からの意見があった。一方で、このまちの新たな魅力をつけることによって住宅の誘導が図られるのではないか、という意見も出ているので、跡地の活用については、住民の方の生活利便施設や、施設一体型義務教育学校の魅力ある教育によって地域に住みたいという人を呼び込めればと考えている。そのため、跡地については先に生活利便施設等を誘致し、徐々に住宅を誘致できればと考えている。具体的なことは現時点で決まっていることではない。(市)

■各プロジェクトの状況について【学校】

○森事務局長より適正就学対策審議会の報告

- ・元々施設一体型義務教育学校とすることについては、富秋中学校区等まちづくり検討会議でこれまで議論してきており、市としても進めていくこととなっていたが、今回改めて適正就学対策審議会にかけて検討することとなった。
- ・適正就学対策審議会の主題は、幸小・池上小・富秋中学校を施設一体型義務教育学校とするかということ、就学区域をどこまでとするかを定めることであった。
- ・審議会の雰囲気は、多くの方が施設一体型義務教育学校について前向きな意見だった。
- ・アンケートの結果、葛の葉町にいる就学前の子どもがいる世帯のうち 4 割程度の方が「新しい学校に魅力があれば通わせたい」という結果が出たが、就学区域については、現在富秋中学校ではあるものの信太小学校・信太中学校との選択制を取っている今の状況を維持してほしいという要望があったの

で、今すぐに葛の葉町を全て富秋中学校区の就学区域に移すのは難しいのではないかという議論になった。

- 3月の審議会で決定したこととしては、施設一体型義務教育学校を導入すること、就学区域については選択制を導入すること、としてまとめられた。
- 一委員としては、ただ小中学校を一つにするのではなく、まちづくり全体の中の位置づけを意識して検討してほしいということ、魅力あるまちづくりをしていきたいということ、葛の葉町は富秋中学校区という意識が強いということ、市にも理解してほしいということ、葛の葉町は、例えば地域教育協議会などの組織も信太小学校の方に入っているが、今後富秋中学校区に来ることを考えて、葛の葉町会との連携についても考えていただきたいということ、などを意見してきた。
- また、信太小学校と中学校の小中一貫校化を計画することになった場合、葛の葉町は両方の学校を選択できるというのは難しいと思うので、それについては今後議論していこう、ということになった。

○坂倉より資料説明 資料【ミライの学校を創るプロジェクト】【教員向け説明会・ワークショップ】

- 和泉第一団地の北側にある阪和線の踏切は通学のメインになるところだと思うが、今も中学生が通学している様子をみるとすごく危ない。小学生が通るようになることを考えると、踏切渡ってすぐ道路となっていてところを、団地側にもう少し入り込むなど、何か対策を考えていただきたい。

⇒線路の横断の対策については、ミライの学校を創るプロジェクトでも多くの意見をいただいた。現時点で具体的内容をお示しできないが、他部局とも課題については共有しているところであるので、開校に向けてどのような対策が取れるか、今後検討していきたい。(市)

- これまで3つの学校それぞれに伝統やコミュニティ、地域と学校との交流などあったと思うが、環境が変わっても、引き継げる活動はうまく引き継ぎつつ、新しい活動の意見についてもこの場でご意見もらえればと思う。(コンサル)
- 民生委員に関して委員の成り手が見つからず困っている。町会役員も同様住民が高齢化しており担い手を探すのに難儀しているが、(そういった活動に興味を持ってもらうには)やはり子どもの時からボランティア精神を養える活動・教育が必要だと思う。
- 教員向け説明会の意見の中には、西教寺子ども食堂のことを書いてくれているが、子ども食堂には先生のOBOGも来てくれているので。新たな学校でも反映させられるものになればよい。
- 教育の基本と言われる「知育・徳育・体育」の3育、最近では食育も含まれると思うが、その3育を大事にすればボランティア精神も育まれるものだと思う。この中では、現在徳育の部分が欠けていると思うが、3育のような考え方に重点を置いた教育方針としてほしい。
- 今回3つの学校が1つになって中学校区まで広がり、職員自体も減ることで子どもを見守る目も減ると思うので、そのような中で子どもたちの安全面をどのように確保しようとしているか、今の説明では見えづかった。

⇒通学の安全面、見守りについて、小中一貫校となることですべてが完璧になるわけではないが、例えば3校のPTAが一つになることで負担の軽減にはなる。また、校区は広がるがPTA活動の範囲が広がるわけではない。教員については、小学校と中学校の教員がコミュニケーションを取りながら、小学校低学年から中学生まで、子ども達を見守る事ができるようになる。また、町会側も、1つ

の学校を見守っていただくだけでよくなるので負担感の軽減にもつながり、全体的に効率よく見守ることができるようになると考えている。(市)

- また今の文化、伝統を引き継ごうとしているが、せっかく新しい学校をつくろうとしているので、今回の新しい学校に見合うような教育委員会側で考えている自主的な施策などの考えはないか。一貫校として打ち出す特色はないのか。9年間一緒に学校へ通うことになるので、環境が変化しないことへの対応策は何か考えているか。

⇒今までのように小学校・中学校が分離していると、中1ギャップが生じるという課題があるが、今回施設一体型義務教育学校となることで、1～9年生を同じ教員がみれることが大きなメリットになると考えている。一方で、ご指摘のように9年間一緒に環境で変化がないことについての課題もあると思うので、既に開校している南松尾はつが野学園でも、小学生としては最上級生となる小学6年生の立場を守る行事など検討しているところである。(市)

- 小中一貫校の指導要領（シラバス）があり、確立した教育観念があるが、それがあつて、これまでの伝統を引き継げないというデメリットもあると思うので、デメリットをどのように克服していくか。

⇒2小1中の伝統を引き継ぐこともあるし、一緒になることで新たにできることもあると思うので、互いの良いところを取りながら、新しい学校の良さをつくっていききたいと考えている。(市)

⇒学校の伝統は地域に支えられて成り立っている部分もあると思う。学校だけでなく、地域との関係も大事にしながら、学校と地域それぞれで行っていることをうまく取り込めればよいと思う。(コンサル)

- 富秋中学校の特色、伝統は人権教育だと思うので、大事にしてほしい。一般的には難しい問題と捉えられてしまうこともあるが、例えば京都では近くの大学生がアニメなどを使用してポップに人権教育するなど、若い子にも伝わりやすい打ちだし方で特色を出している。富秋中学校区でも、桃山学院大学の学生と学べるとか、他の校区にはない人権教育の特色を打ち出せたら良いのではないかなと思う。

■各プロジェクトの状況について【公園】

○ヘッズより資料説明 資料【公園についての報告】

- 新しい公園の出来る場所の近くに、放光池公園があるので、関連性について考えられないか。例えば大胆に緑でつなげるなどすると、盆踊りの時などに安心して使える空間になるのではないかな。

⇒放光池公園まで全てをつなぐのは難しいが、地域の中でみどりのゾーンとして位置付けるのがよいのでは、といった意見はいただいた。また、放光池公園は坂の上にあるということで、小学生や足の元気な人であれば遊びにいけないが、高齢者や子育て世帯が寄りやすいのは今回新たにつくる公園の方ではないか、という意見もあった。誰でも気軽に立ち寄れる場所は、今回の公園に充実して、子どもの遊具についても、放光池公園と今回の公園で考えられる遊びを役割分担できるとよいのでは、という議論もあった。(コンサル)

- 駐輪場はつくらないのか。

⇒今はまだ、大きな広場や拠点になる休憩所、トイレなどの配置をしている段階だが、駐輪場は公園の入り口付近に必要なものだと思うので今後反映していきたい。

また、まち全体でみると多世代交流拠点施設の敷地内にも広場ができるので、そこでの役割分担も考えたい。ただし、単純な分担ではなく連携することや、地域内に複数あることで効果的になる空間もあると思うので、まち全体でみてご意見いただければありがたい。(コンサル)

- ・災害時のことを考えて、なるべく高低差のない広場にしてほしい。この地域は、津波や土砂災害などはないと思うが、災害時にインフラが止まってしまう懸念がある。その時に、給水車が2～3台来ても機能するスペースがあった方がありがたいのではないかなと思う。

⇒先日の富まちミーティング【公園編②】のまとめにもあるとおり、(仮) 交流・防災広場ゾーンと位置付けているところが、一番アクセスしやすく広く面積を取れるところとみており、約 50m×30m 程度（グラウンドゴルフができるくらい）の高低差のない広場が取れる想定なので、ここが防災時の拠点になるのではないかなと思う。周辺が斜面になっている状況ではあるが、なるべく防災広場を広く取れるように計画していきたい。（コンサル）

⇒各プロジェクト、中間報告時点の方向性で検討を進めることに対して、異論はなかった。

■今後の進め方について

○市浦より資料説明 資料【ここまでと今後の進め方について】

■その他

○来年度、役員交代がある方については、引き継ぎをお願いしたい。

○今後の進め方にあるとおり、次回は5月頃を予定しているので、また近づいたところに連絡する。

以上